

## 平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 「科学技術賞（開発部門）」受賞

2018年4月17日に行われた平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、ネットワーク開発部の杉山 一雄、無線アクセス開発部の前原 昭宏、移動機開発部の二方 敏之の3名は、「世界を牽引した高音質かつ高効率なVoLTEの実用化開発」への功績により「科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。科学技術分野の文部科学大臣表彰とは、「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする」もので、この中で科学技術賞（開発部門）とは、「我が国の社会経済、国民生活の発展向上に寄与し、実際に利活用されている（今後利活用が期待されるものを含む）画期的な研究開発若し

くは発明を行った者を対象」とするもので、文部科学大臣から授与されます。

ドコモは、平成25年度に「S帯を用いる国内衛星移動通信システムの高度化に関する開発」、平成26年度には「標準化活動への貢献を含むLTEシステムの開発」、平成27年度には「ISDB-Tmmマルチメディア放送方式の開発」、平成28年度には「音声エージェントサービスの開発」により本賞を4年連続で受賞した実績があります。

受賞の対象となった「世界を牽引した高音質かつ高効率なVoLTEの実用化開発」では、国際標準化機関（3GPP）において、高効率でQoSを保証した音声伝送を実現できるVoLTE（Voice over LTE）と、従来の3G方式のエリアへ移動しても音声途切れなく継続可能なSRVCC（Single Radio Voice Call Continuity）の仕様策定を世界的にリードしました。また、本開発により、従来と同等以上のエリアを確保しながら、音声の伝送効率向上と品質保証を実現することが可能となり、VoLTEの周波数利用効率は3G方式に比べ約3倍に向上しました。本成果は、国際標準規格として結実しており、日本のみならず世界的な観点で、限りある資源である周波数を有効に活用できる、質の高い音声サービスの提供に寄与していることが認められ、今回の受賞となりました。

